

やなけん!

台東区立谷中小学校 研究だより

第7号

令和4年 9月29日(木)
台東区立谷中小学校
研究推進委員会

研究主題 よく考え工夫する児童の育成 ～体育科におけるICTの活用を通して～

第4回研究授業報告!

【日時】9月22日(木) 5校時 【対象】2年1組31名
【授業者】八鎌 麗主任教諭 【領域】ボール投げゲーム
【単元名】「ねらって!ねらって!まとあてゲーム」

本単元では、まず、運動量を確保するために、学習過程を工夫し毎時間の流れを統一して児童が見通しをもって主体的に運動することを目指しました。また、指導と評価の一体化を実現するために、毎時間の導入で教師がめあてを明確にし、チームタイム等でめあてを意識した言葉掛けをして、児童がめあてに沿った思考ができるようにしました。さらに、思考力を向上させるために、守りの数を増やす・ボールの数を減らすなどルールを段階的に設定しました。

本時の授業の様子(授業評価シートより)

研究の視点① 運動量の確保

・マネジメントの時間も機敏に動いていて日頃の学級指導によるものだと感じました。

研究の視点② 思考力を身に付けさせるためのICTの活用

- ・段階を経たルールの設定により、児童の意欲と技能が向上したと感じた。
- ・ゲームの工夫、場づくりの工夫などが考え抜かれているのを感じました。少ない指導で子供たちがイキイキと動いている様子が印象的でした!
- ・本時以外でICTを活用した場面を協議会で共有できたらよかった。
- ・低学年でのICTを活用した方がよい場面、しない方がよい場面が見えてきた。
- ・作戦タイムで1人の発言を他の児童がきちんと聴いていたのが印象的だった。

研究の視点③ 指導と評価の一体化

- ・チームタイムでの言葉掛けが少なく感じた。
- ・全体で本時のねらいをきちんと踏まえて考えを共有できていた。

その他

- ・見ていて私も楽しくなりました。
- ・たくさんのボールが行き交うので、ボールを拾いに行くとき接触しないか心配でした。
- ・2クラスで事前・本時・事後と研究を深めていて理想的な研究の姿だった。



	平均値
1. 児童の運動量は十分に確保されていた。	4.917
2. 教師は場面展開をスムーズに行っていた。	4.667
3. 児童の移動や待機の場面が少なかった。	4.583
4. 児童はよく考えて学習していた。	4.5
5. 児童は動きを工夫して運動していた。	4.417
6. 児童の思考力を高めるためにICTの活用は有効であった。	3.25
7. 児童は主体的に学習に取り組んでいた	4.667
8. 児童は楽しく学習していた。	4.917
9. 児童は授業の約束事を守っていた。	4.667
10. 教師は児童に適切な言葉掛けをしていた。	4.333

◎成果と▲課題

- ◎学習過程を工夫したり、コーディングシートを活用したりしたことにより、運動量を十分に確保することができた。
- ◎学習過程を工夫したり、段階的にルールを設定したりしたことにより、児童が見通しをもって楽しく学習することができた。
- ◎チームタイムで司会をたてて話し合わせたことにより、短時間でめあてに沿った話し合いできていた。
- ◎タブレットの得点表を活用したことで、操作が簡単になり、得点の計算間違いや混乱を避けることができた。
- ▲発達段階として、思考力を高める手立てとしてのICTの活用が難しかった。よりよい活用方法を考えたい。
- ▲全体での学習指導ではめあてに沿った指導をしていたが、ゲーム中やチームタイム中に具体的な言葉掛けが少なかった。
- ▲本学級では怪我は無かったが、ボールが行き交って児童がボールを追いかけ合っていたため、安全面の配慮が必要であった。

授業者(八鎌 麗主任教諭)より

ボール投げゲームでは、体育科における主体的な学びの素地作りを目標に、まずは児童自身が心から楽しいと感じることが出来る単元構成をめざしました。本時のねらいは、自分たちで考えた得点を取るための作戦を選んでチームの友達に伝えることです。どの子も自分たちなりの作戦を選び、実践し、交流することで、思考力・判断力・表現力の高まりがみられました。何よりも児童が主体的に生き生きと取り組めることができてよかったです。このような勉強の場を与えていただけたことに感謝いたします。